

中川正春の永田町かわら版

2005/6/28 第237号

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○都議会議員選挙はじまる。

7月3日が東京都議会議員選挙投票日です。民主党の現職は19人。国会議員選挙の前哨戦として、総勢51人の候補者を立てて、勢力拡大をめざします。

都議選用の民主党東京都連のマニフェストが話題になっています。面白いものをいくつか紹介します。

【災害】震災に強い倒れない家を作るために、民主党は、自宅の耐震改修にかかる費用分を固定資産税から免除する制度を提案します。【教育】都内で2000校の国公立小中学校のうち、200校の校長を公募して登用します。

【環境】水道水の塩素処理に替えてオゾン、活性炭、膜技術など「高度浄水処理」をしておいしい健康な水を作ります。

【子育て】月2万円の子育てクーポンで、認証保育所も含め、親が保育園を選べる制度で待機児童0を目指します。【議会】議員による行政への口利きを公開します。口利きの依頼を受けた職員は、その内容を記録し、処理状況とともに、将来請求があったときに公開するための公文書として保存を義務づけます。【住民参加】都民の税金のうち1%を自ら支持するNPOの活動支援に投ずる事のできる「都税使途指定制度」を創設します。

その他、都営地下鉄の赤字解消問題や犯罪防止に対する取り組みなど身近な政策課題に対する具体的な約束が説得力をもって盛り込まれています。候補者の平均年齢は43歳。勝つためには、都民が選挙に参加してくれなければなりません。私も今朝は、大手町交差点で街頭演説に立ちました。欲は言いません。少なくとも、投票率60%以上の盛上げを実現したいものです。皆さんのご親戚、学生時代や商売関係のご友人にどうか働きかけてください。

○増税の前にやるべきこと

来年度の予算編成を考える時期になって、政府の審議会や調査会からいくつかの方針が出てきました。

竹中平蔵さんの経済財政諮問会議は、財政改革の歳出抑制が目玉になっています。具体的には、公務員の人件費と医療費の伸びを抑制すべきだといひます。

特に医療費については、経済の伸びの範囲内に抑えようとする経済マクロ管理が財務省を中心に主張されましたが、結局自民党の族議員の抵抗でウヤムヤ。今年の12月まで結論を先送り。これまでは、実現できなかった分を国債増発でまかなってきました。今年も同じことを繰り返して、掛け声倒れで歳出抑制は失敗となれば、日本の危機がまた一歩近づいてきます。

財務省の財政制度審議会は、10年後の財政状況をシミュレーションして、「年金、医療、介護の伸びを経済成長並に抑制しても、消費税は12%まで引き上げる必要がある。」という計算結果を発表しました。

一方で、一橋大学の石弘光元学長が会長をしている政府税制調査会が、所得控除の見直しと、定率減税の廃止と合わせてサラリーマンを中心に所得税の増税の答申を出しました。

各省庁のキャンペーンの方向がハッキリしてきました。お金が足りないということです。それを克服するのに、これまでは、借金を重ねて780兆円。それも限界にきている。しからば、リストラや無駄な予算の見直しとか言えば、関係団体や族議員に反対され骨抜きになる。結果は、政府、与党が足並みそろえて増税という方向で歩みだしています。民主党は、この流れを許さず、「まずリストラ、そして無駄な予算の見直しと組替え」。これをやって国民の政治に対する信頼を取り戻す事だといひています。私達の最優先課題だとうたっています。

○7月13日は靖国神社、みたま祭

私の散歩コースの靖国神社に、「みたま祭り」の準備が始まりました。今年も沢山の提灯で幻想の世界が靖国をおおいます。私の地元からも沢山の参りがあります。

私は、靖国の社の前に立つと、必ず国家とか権力とかの力、国民の心のうねりの怖さを思い起こします。日本が戦争に走り出した中で、命をかけて平和の尊さや正しい外交のあり方を説き続けた人たちに、ここでもう一度歴史の光をあてる。靖国問題をそんなふうにも考えてみたいと思ひます。